



あなたのお家のお内仏は
正しい飾り方が
なされていますか
右の写真と
照らし合せて
正しい飾り方を心がけましょう。



- ① 本尊 (ほんぞん)
真宗の本尊は阿彌陀如来です。
- ② お脇掛 (おわきがけ)
本尊に向かって右側に親鸞聖人のご影像、又は
十字名号をおかけします。
- ③ お脇掛 (おわきがけ)
本尊に向かって左側に蓮如上人のご影像、又は
九字名号をおかけします。
- ④ 金灯籠 (かなとうろう)
お宮殿の両側に1対つるし、「本尊のお姿を明る
く照らすために用います。
- ⑤ 隅瓔珞・宝鐙 (すみようらく・ほうたく)
お宮殿の屋根の隅に吊るします。
- ⑥ 菊輪灯 (きくりんとん)
朝夕のおつとめの時点灯します。
- ⑦ 戸帳 (とちょう)
本尊の前に吊る金襴製の荘厳具です。
- ⑧ 華鬘 (けまん)
戸帳の上に飾るものです。
- ⑨ 上卓 (うわじょく)
本尊の前、須弥壇の上に置く卓です。燭台・華
瓶・火舎香炉・仏飯器を置きます。

- ⑩ 仏飯 (ぶつげ)
お仏飯を盛る器をいいます。朝のおつとめの前
にお供えし、正午にはお下げいたします。
- ⑪ 四具足 (しきそく)
イ 火舎香炉 (かしやこうろう)
上卓の中央に置く香炉で、焼香のために用い
ます。向きは足の一本が正面になります。
- ロ 華瓶 (けびょう)
浄水を入れる器で上卓の上に対置き、水を
入れしきみをさします。
- ハ 燭台 (しょくだい)
朱の木蠟を立てます。
- ⑫ 打敷 (うちしき)
前卓と上卓におかけする三角の織物で、お正月・
お盆・お彼岸・報恩講・年忌法要などの重い法要
の時のみ用います。
- ⑬ 供荷 (くけ)
お華束(小餅)をのせるもので、普段は用いず、
重い法要の時のみ用います。
- ⑭ 五具足 (ごくそく)
燭台・花瓶・香炉のことを五具足と呼び、原則と
してお内仏の中で使用するものです。普段は三具
足にしておく。
- イ 燭台 (しょくだい)
ローソク立のことです。正式には1対でお飾り
します。ローソクの光は、如来の智慧の光を象
徴するものです。ローソクの光に、すべての人
の心の闇を照らし出し、救済しようとはたらき
かけておられる如来の心を感じたいものです。
- ロ 花瓶 (かひん)
本尊が隠れないように置きます。生花を用
い造花は使用しません。
- ハ 土香炉 (どこうろう)
陶器の香炉です。向きは足の一本が正面にな
ります。線香を香炉の大きさに応じて数本に
折り、火の付いた方を左に向け灰の上に横に
して置きます。



上卓と前卓

- ⑮ 木蠟 (もくろう)
平素、燭台に立てる木製(朱塗り)のローソクです。
- ⑯ 法名軸 (ほうみょうじく)
法名軸はお内仏(お仏壇)の左右側面におかけし
ます。
*真宗では正式には法名軸を用い、位牌を使用する
ことはいたしません。
- ⑰ 前卓 (まえじょく)
須弥壇の前に置く卓です。五具足(三具足)を置
きます。
- ⑱ 見台・過去帳 (けんたい・かこちょう)
過去帳には亡くなられた方の法名・亡くなった年
月日を記します。
- ⑲ 香盒 (こうこう)
お香を入れる物です。
- ⑳ 鈴 (りん)
おつとめをする時に用いる「かね」を鈴といいます。
*おつとめをする時以外は一切打ちません。
- ㉑ 撥 (ばち)
鈴を打つ棒で、おつとめの時以外は鈴の中に正面
を向けておきます。
- ㉒ 鈴台 (りんたい)
鈴を置く台を鈴台といいます。
- ㉓ 和讃箱 (わさんばこ)
おつとめに使う「正信偈」と「和讃」を入れてお
く箱です。
- ㉔ 和讃卓 (わさんじょく)
和讃箱をのせる卓です。
- ㉕ 御文章箱 (ごぶんしょうばこ)
御文章を入れておく箱です。
- ㉖ 御文章台 (ごぶんしょうだい)
御文章箱をのせる台です。

お仏壇の飾り方は、お仏壇の形式・サイズ・お仏
具の種類及び地方の習慣により異なる事があります。
必ず当店にお問合せ下さい。